令和５年度　第３回学校運営協議会・学校関係者評価委員会　　議事録

期日：令和６年２月２９日（木）
１０：００～１１：５０
場所：岡山西支援学校小会議室

出席者：委員１１名
岡田委員、杉山委員、祇園委員、熊代委員、澤井委員、田中委員、
萩原委員、村上委員、武縄委員、安原委員、山岡委員
本校職員７名
宮内副校長、神田事務長、小銭教頭、小川教頭、小田教頭
濵野主幹教諭、竹内生徒指導主事

１　開　会

（学 校 長）　年度末のお忙しいところ、お集りいただき感謝している。本日は学校経営のまとめについて、色々な反省等や来年度に向けての課題のご指摘をいただきながら、アドバイスをしていただければ有難い。

２　協　議

（１）学校経営の成果と課題

＜学校長が資料により説明＞

（学 校 長）　第１回目に学校経営計画案を示したが、この計画案に基づき具体化したものをどうしていくのか、評価の基準をどう考えていくのかを示しており、また中間や最終の達成状況をまとめている。本日は、年度末の達成状況を中心に説明をさせて頂く。評価のＢについてはほぼ達成できている。評価のＡについては、想定よりも成果が上がった。評価のＣについては、もう少し頑張っていかなければならないという評価になる形で御覧いただければと思う。

（具体的説明内容についての詳細は別紙参照）

（ 委 員 ）　何かご質問やご意見などないか。

安全教育についてだが、これまでの学校安全教育は避難、逃げるが基盤であった。しかし、以前の東日本大震災や、この度の能登の地震では、逃げた先で障害を持つ生徒が生活をするということが起きている。今回の能登の地震では、通常の学校では割と短期間で学校再開となっていたが、特別支援学校については２月中旬までなかなか再開できなかった。子供の生活の基盤が安定しない中で、通学させることについて保護者は不安や困難を感じている。避難後の生活についての視点を学校も持っていただきながら安全教育に関わっていって欲しい。

（学 校 長）　石川県能登の地震では、大きく被害を受けた七尾特別支援学校、珠洲分校、輪島分校がある。七尾特別支援学校、珠洲分校は１月末に学校再開。ただ輪島分校は学校の被害は余りなかったが、市・町の被害が深刻であり送り出す体制が整っていなかったことで、手間取っていた。本校ではそうなった場合、家庭や地域にどう支援ができるのか。特別支援学校は学区の広い所もあるので、県内特別支援学校の課題でもあると考えている。

（ 委 員 ）　生徒指導の関連で、不登校の生徒がどういう状況なのか。交通手段などが関連して不登校になっているのか状況を知りたい。

（学 校 長）　本校生徒の通学方法としては、保護者送迎、自転車などの自力通学、スクールバス、公共交通機関を利用しての通学である。交通手段がないから不登校になっているわけではなく、家や部屋から出ることができないなどがあるが、根っこにあるのは小中の子供たちとそんなに大きな差はないと考えている。この子たちを、どう見守り、どういう登校支援、どういう登校刺激を与えていくかなど、児童相談所やお医者さん、ケースワーカーや SSW と相談しながら丁寧に取り組んでいる。また、Zoom を１日短時間で、１週間に何度か遠隔で繋がっていくことも行っている。

（ 委 員 ）　防災の関連で、施設では R6 年度から事業継続計画を必ずつくらなければならないが、学校ではそういうものがあるか。

（学 校 長）　県立の特別支援学校は地域の避難所としての役割があるが、学校と市と直接交渉等しているので、次年度継続計画等はない。ただ、防災計画については、毎年ブラッシュアップしたものをきちんと届け出るようになっている。それが、継続的に毎年行われているので、継続計画を出しているのと同じである。

（ 委 員 ）　入所施設となると、利用者が１年３６５日生活しており、職員も地震となれば被災していることもあり、その中でどう事業を計画していくかを立てないといけない。

（２）各学部の取組について

＜各部教頭が資料により説明＞

（小 教 頭）　個性や特性を大切にした教育活動の推進では、既存の教材を児童にあった形で取り入れ、児童の実態に応じた新しいものを作成している。加えてみんなで個別課題についての情報を共有し、新しいアイディアの参考にするということを計画していた。しかし、スケジュール調整が上手くいかなかったので、R６年度では実施できるようにしたい。

技能検定については、他学部の先生から認めてもらう経験を積むことができた。タブレット端末の活用では、主に先生が使っている状況なので、子供

たちが自分で活用する場面をつくり、活用能力を高めていきたい。

校外学習では、夏休みに地域に出てどんなものがあるかを調べる研修を行ったことで、校外に出る機会が増えた。

センター的機能については、居住地校交流を推進した結果、昨年度以上の参加ができ、その内、直接交流も２６名と増加した。保護者の方々からは、好意的な意見や感想を得ることができたので、継続していきたい。地域の小学校や色々な施設と密接に繋がるために、ICT を活用した校内研修の配信などを積極的に配信していきたい。

（中訪教頭）　小学部で育まれた言語や数量の基礎的知識を基盤とし、発達段階に応じた学習課題を設定し、既存の手法や教材、ＩＣＴ機器等を活用して授業を行った。技能検定では、清掃やパソコン検定に向けたグループ学習を実施し、検定取得に向けた取組ができた。あわせて西っ子元気プロジェクト検定では清掃部門で全員が参加することができている。

社会参加を目指した教育の推進では、学校歯科医、インターナショナル歯科衛生専門学校の学生さん達に講師として歯磨き指導を、養護教諭中心にバランスのとれた食生活や薬の正しい服用の仕方など、知識・技能・態度の育成を図った。９月には中学部全員で仕事体験を行った。「はし入れ」「ボルトナットの解体」「サンプルはがし」などを行い、進路を考えるきっかけとなった。

Ｉ学期には御南中学校とボッチャやボウリング、２学期には転がしドッジボールを中心とした交流を実施し、お互い良い機会となった。生徒も楽しみにしており、とてもいい交流ができた。御南西公民館で実施されている講座の講師や受講生を地域の外部講師として招いて学習活動ができ、地域との繋がりを深めていくことができた。

（高 教 頭）　高等部では iPad を入学時から購入しており、ＩＣＴ機器を積極的に授業で活用している。生徒も職員も使い慣れてきているので、課題解決する学習の充実を図ることができた。技能検定では多くの生徒が受検し目標に向けて意欲的にチャレンジできていた。キャリア教育の視点で、高等部の生徒及び職員が小学部、中学部に出向いて清掃の仕方を教える等、学部を超えて児童生徒が交流し、お互いの学び合いに繋がった。

今年度Ｉ・２年生では地域型実習を計画し、１０日間実施できた。就労への意欲を高め、地域の方に指導していただきながら、知識や技能を身につけることができた。

作業学習では、現３年生が入学して３年間同じ作業班を続けた結果、上級生が下級生に作業を教え合うことが自然とでできるようになった。また、生徒の作業レベル向上により、作業内容の工夫や新しい作品への挑戦ができる

などのメリットがあった。高等部としては、地域の協力があってこそ、学習がなりたっており大変有難いと思っている。良い機会があれば教えていただきたいと思っている。また、生徒の活動をブログや SNS、学校便りなどを通して積極的に発信していきたい。

（中訪教頭）　一人の生徒に対して複数の職員（担任）が交代をして関わっており、児童生徒の実態をつかみ、意見交換しながら授業を行っている。スクーリングでは２か月に１回本校での学習を設定し、こばと学級という形で実施した。今年度は「祭り」をテーマにして夏祭り、秋祭りなどをイメージして装飾やおめん作りなどに取り組んだ。

校外学習は岡山県立図書館へ行き、読み聞かせを聴いたり、貸し出しカードを使い自分が好きな本を借りたりして、公共の施設を活用することができた。小６や中３児童生徒は実態に合った形で修学旅行を計画・実施した。

健康・安全の歯と口の健康については、学校歯科医からの動画メッセージを見たりして大切さを確認。また、生まれた時や小さい頃のエピソードを保護者から聞かせていただき、心と体の成長をみんなで喜び合っている。体調をより良い状態に保つために体操や手洗いなど個に応じた授業実践を行った。

こばと学級実施時に交流学級の生徒たちとの活動をしたり、きらぼしアート展への共同作品作り出展を行ったりした。西支援祭では、ステージ発表や販売活動に取り組み、学習の成果を発表することができた。

（３）高等部進路状況について

＜高等部教頭が資料により説明＞

（高等部教頭）高等部３年生１９名は卒業後の進路先が決定している。一般就労２名、A 型事業所４名、B 型事業所７名、自立生活訓練４名、就労移行７名、生活介護２名である。

（４）いじめ対策について

＜生徒指導主事が資料により説明＞

（評価の考察の内容については別紙参照）

（生徒指導主事）

まとめとして、本校ではいじめの未然防止・早期発見・早期解決のために、児童生徒の小さな変化を見逃さないように、日常的な観察を丁寧に行うことや教育相談等に加えて、年２回のいじめに関するアンケート調査を行っている。アンケートや学級担任の観察、本人からの訴えについては、本人から詳細について聞き取りをしたり、こまめに観察をしたりして対応している。該当した加害・被害生徒一人一人に対して担任による教育相談を行い、聞き取りや相談・指導にあたり、ほとんどの問題は解消されている。また、小学部

や中学部ではどんなところでイライラしているのか、どんなところに困難を抱えているのかを把握し直すことで、表情によって事が起きる前に手立てを施し問題解決や解消に繋がっているケースがある。高等部においては、イライラした時にはどういう行動をとっていくのか、その代替手段の獲得が社会に出ていくためには必要と考え、組織的に指導支援をしていきたい。いじめられた生徒には心のケアを行っていくが、生活上の困難を克服していくための自立活動の視点が大切になってくるので、同じことが起きた時にどの様に生活をしていくのかなどの力をつけさせていきたい。

（就労・進路状況についてご感想、ご意見など）

（ 委 員 ）　生徒指導では、悩みを大人に相談できるということが、いじめの対応として指摘されていた。いじめられた子と困っている子がちゃんとしかるべき方にちゃんと相談をして、解決していくことが障害者差別禁止法にも書いており、合理的配慮の観点からも一致するので、困ったことがあったらいじめに関わらず大人に相談するということ強調して対応して欲しい。

（ 委 員 ）　特定求職者雇用開発助成金制度の改定に基づき、A 型事業所や B 型事業所への就労が大変厳しくなっていく。一般就労の生徒や A 型事業所の生徒達には、定着支援が大切である。企業や公的機関との連携を大切にし、定着へ向けた支援が必要である。高等支援学校では離職率が高くなっている。能力が高いほど離職するなどの傾向があり、計画相談などを通じて情報を得ながら支援に向けた取組が重要と考える。

（高等部教頭）その情報は、様々な所から聞いている。今後、進路指導主事とも連携していき、的確な情報を取り入れ、対応していくことを考えている。

（５）次年度経営目標について

＜校長が資料により説明＞

（具体的な取組についての詳細は別紙参照）

（６）まとめ（ご意見・ご感想）

（ 委 員 ）　各部の活動をいつもホームページでよく見ているので、どのようなことを行っているのかある程度理解できている。技能検定のことなどの内容がよくあがっている。

（ 委 員 ）　公民館とのふれあいがよくできいている。公民館文化祭では小中高の児童生徒が作成した作品を展示してくれている。販売では年に３～４回実施しており大変好評である。販売に向けての準備、お金の受け渡し、放送などそれぞれの持ち場でしっかりと対応できている。時には売れ残りもあるが、商店の仕組みが学べて、実践の充実ができている。

（ 委 員 ）　この学区で防災に関しては、西支援学校が牽引していた。そこから我々も教えてもらいながら防災力を高めていっていた。コロナ禍で活動ができなくなった中で、以前の状況になっている。地域の方々に西支援学校を知っていただくために、直接関わりながら関係を深めていければいい。

（学 校 長）　本校でも、徐々に校外に出ていく活動も増えている。運動会や、西支援祭など外部の方々に来ていただくなど、徐々に考えていきたい。

（ 委 員 ）　ひらた旭川荘のひらたの市では、高等部の生徒がいつも元気にあいさつをしてくれている。また、商品を販売する時に、学校職員から「お客様に商品の説明をしてあげて」との促しがあるときちんと説明ができる。新聞の滴一滴の記事に倉敷まきび支援学校の高３生徒のことが載っていた。障害者年金セミナーの記事であり、１９人の生徒にとっては、この先の方が長いのだが、福祉制度について生徒や保護者に伝えているか。

（主幹教諭）　高１では保護者対象に福祉制度説明会を実施。高２では保護者、生徒対象に地区懇談会を実施。高３では生徒対象にひらた旭川荘の相談支援専門員に来ていただき、福祉サービスについての講話をしていただいている。

（ 委 員 ）　学校教育目標や経営計画を聞いている中で、校種は違えど重なる部分がある。自立と社会参加という話があったが、何でも一人でやっていきなさいと伝えがちである。社会的自立とは、互いに助け合いながら豊かな生活ができるということであり、災害時などは顕著にそれが現れる。これからも生徒同士の繋がりだけでなく、職員同士の繋がりを大切にして、交流することが普通になることができればいいと思っている。本校の学校公開に来ていただいて販売活動することや、西支援祭で本校生徒がボランティアとして活動するなどで交流できたら良いと思う。

（ 委 員 ）　センター的機能は地域の財産である。接遇や清掃の検定などで一番身につけたい力をつけることができるのは支援学校の良さである。小学部や中学部へ出向いて教えるなどはとても良い。教わったことを教えるということで、あいさつができたりして、繋がりが増え地域も変わってくるのではないか。

（ 委 員 ）　児童相談所では心理士をしており、知的障害のある生徒との関わりは療育手帳の更新の時である。更新の度に子どもの成長を感じられる。先生方が日頃からこんなに細やかに対応されていることを、児童相談所の職員は知らないことが多く、知ろうとしなくてはいけない。

（ 委 員 ）　地の利のある学校である。学校経営計画のもとやることも多岐にわたっている。岡山市のある地域では、個別避難計画があり地域との連携など学区を定めて行った。本年度、来年度とそれぞれの学区に広がっていけばいいい。

居住校地交流については、大変好評である。行った先の学校が手厚く迎えてくれ、子供同士の理解が進み、意味のあるものである。

働き方改革について、教育の質と多くの制度が進む中での教職員の働きの中で、先生方もジレンマを感じているのではないか。こういった場でも先生方の苦労話が聞けたらいいと思う。

（ 委 員 ）　２年前に比べ自由に活動できている。地域との連携や災害時の対応は地域行事が多い中で難しいかもしれないが、いかにこちらから地域に出ていくかが大切である。また、先生方の人手不足は深刻である。福祉の現場でも同様である。支援学校の仕事は多く幅が広い。目標は立てるが全部実施するというのは難しいのではないか。何より先生方が日頃から笑顔で明るく元気であることが一番大切である。

（ 委 員 ）　我が子も西支援学校に通っている。先生方の不足により教頭先生も授業の中に入ったりで現状がよく分かる。その中で、保護者の立場としては子供に熱心に関わって下さっているのでとてもありがたいと思っている。

防災に関しては、我が子などは自分で避難することが難しいので重く受け止めている。地域と学校が関わって、お互いを知ろうとするなど、地域の皆さんが積極的にされているので学校でも生徒がすくすく育っている。自立というのは自分で立つということではなく、周りの人達からダイレクトに助けを求めていこうとすること、それに感謝の気持ちを持つことなどを学校や地域で教えていただけると、我々も信用して、安心して子どもを育てることができる。今日参加して良かったと思っている。

学校関係者評価委員会説明

＜主幹教諭が資料により説明＞

（評価の考察の内容については別紙参照）

（学校関係者評価についてご意見・ご感想）

３　閉　会

（学 校 長）　学校運営協議会では、来年度に向けての学校教育目標や経営計画を提案させていただいた。ご承認をいただいた。令和６年度４月１日には職員会議があるので、全職員に向けて説明し、一丸となって進んでいきたい。働き方の部分では制度は流れ増えていくが、それに対応する他のシステムも考えながら進めていく必要がある。評価委員会においては、アンケートの項目だが、高い評価にはなっているが、出来ていない所に目を向けながら取組を進めていくことが大切であると思っている。今日も地域との関わりについて課題を頂いたと思っている。皆様方から頂いたご意見を基に、来年度も学校運営を進めていきたい。他の機会にもご意見などいつでも頂ければと思う。